

平成 29 年度 学校の森・子どもサミット 開催報告

平成 29 年 7 月 25 日（火）～27 日（木）に平成 29 年度学校の森・子どもサミットを愛知県豊田市・三重県大台町にて開催しました。

サミット 1 日目

（1）小学校児童による活動事例発表会

7 月 25 日、会場である豊田市福祉センターホールには、北は北海道から南は熊本まで全国 10 校の発表校の子どもたちと先生が集まりました。開始 2 時間前の 10 時 30 分には多くの発表校が集まり、念入りにリハーサルを始めていました。



ホール前のロビーには、参加小学校の取組のほか、協賛企業や各団体による日頃の森林保全活動や環境教育に関する取組を紹介するパネルやパンフレット・チラシが設置されました。

また、開催地である豊田市の上鷹見小学校から、子どもたちが地元の竹で作った竹炭が置かれ、訪れた人たちは、竹炭を手に取り、また、熱心に掲示してあるパネルやチラシを読んでいました。



12 時 30 分、いよいよ学校の森・子どもサミットが始まります。発表会の会場には、発表校の子どもたちを含む約 240 名が集まりました。

開会式では、主催者を代表して本サミットの実行委員会委員長である梶谷辰哉氏（国土緑化推進機構 専務理事）と実行委員の木下仁氏（林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室室長）が開会の挨拶を行いました。

挨拶が終わると次は子どもたちの発表です。それぞれの学校で日頃から取り組んできた森林環境教育での学びを発表しました。



子どもたちはステージに上がる時は緊張した表情。それでも、発表が始まると、学校の紹介やフィールドとしている森林の特色など工夫を凝らして元気よく発表をしていました。それぞれの発表には客席から大きな拍手が送られました。

（２）豊田市での「森の健康診断」体験活動

発表を終えた子どもたちは、豊田市の六所山に移動しました。六所山の森林で「森の健康診断」という、森を五感で体感し、人工林の健康状態を科学的に調べるプログラムを体験しました。

子どもたちは、森林にも健康状態があることを知り、どんな状態が健康なのか、どうしたら健康状態が分かるのか興味深くスタッフの説明を聞いていました。明日は自分たちで三重県大台町の森の健康診断をするため、みんな真剣。



また今回は、三重中学校・三重高校の生徒達がボランティアスタッフとして参加してくれました。中高生は事前に「森の健康診断」のリーダー研修に参加して森林での体験活動のサポートしてくれました。また、移動のときに誘導したり、班の子どもたちに声をかけたりするなど、子どもたちのお兄さん・お姉さん役として常に行動をサポートしてくれました。そのお陰で、子どもたちも安心して活動することができたと思います。

(3) 森林環境教育を考える2つの分科会

一方、発表会のあと豊田市福祉センターホールの会議室で参加校の先生や一般参加の人たち向けに森林環境教育を考える2つの分科会が開催されました。



分科会1では、「先生のための実践アクティブ・ラーニング～森が感性・探究する力・学び合う力を育てる～」をテーマに、グループに分かれて身近な自然を生かした体験活動の案を作成しました。また、ファシリテーターから「自分の考え」「い

いこと見つけ」「おたずね」「おたすけ」をキーワードにした「4つの対話アイテム」が紹介され、体験活動をきっかけとしてより学び合う力を高める手法を学びました。この分科会には、豊田市の新任の先生たちが多く参加しており、体験活動の実施方法などについて活発な議論が交わされました。

分科会2は、「子どもたちと地域がつながる森林体験活動交流会～子どもらのキズキとマナビが森を変える。じっちゃんたちの本気で地域が変わる～」をテーマに、「森の健康診断」を三重県いなべ市、愛知県豊田市、岐阜県恵那市、愛知県岡崎市で実施している「森の健康診断出前隊」のスタッフや、地域で小学校と連携して活動する方たちをゲストとして迎え、パネルディスカッションを行いました。地域での活動事例をもとに、地域の人たちと子どもたちとの森を通した多様な関わり方について理解を深めました。

サミット2日目

(1) 三重県大台町での「森の健康診断」体験活動

サミット2日目は、三重県大台町へバスで移動しました。昨日の午後の体験活動や宿泊をともにし、全国から参加している子どもたちも、だんだん打ち解けてきました。

大台町に到着し大台町教育委員会教育長の村田文廣氏から歓迎の挨拶がありました。子どもたちはお昼を食べたあと、大台町の森に移動して、豊田市の森で学んだ「森の健康診断」プログラムを大台町の人工林で行いました。



子どもたちは、森に入って、目を閉じて、じっと耳を澄まします。すると、「鳥の声が聞こえた」「川の音がした」「土のにおいがした」など、たくさんの気づきがあったようです。また、地面も観察してみます。どんな草が生えているのか、どんな葉っぱが落ちているのか、じっくりと見ることで新しい発見がありました。子どもたちは、このプログラムを通して、科学的な目で人工林の健康状態を把握する方法を学ぶだけでなく、五感を使って森を体感することの面白さも理解できるようになりました。

(2) 大杉谷自然学校での夕食づくり・五右衛門風呂焚き体験



体験活動のあと、この日の宿泊先である大杉谷自然学校に移動し、大杉谷自然学校では、グループに分かれていろいろな体験活動を行いました。薪を使って火を起し、かまどでご飯を炊いたり、地元の川でとれた鮎を焼いたり、また薪をくべて、五右衛門風呂の風呂焚きをしたグループもありました。大台町の自然の中で食べたごはんの味は格別でした。

(3) 木のはがきワークショップ

食事のあとは、順番に五右衛門風呂に入ります。お風呂に入るのを待つ間に、木のはがきに手紙を書きました。この木のはがきは、今回のサミットのために、三重県産の木を使って特別に作っていただいたもの。子どもたちは、誰にはがきを送ろうか、どんなことを伝えようか真剣に考えて書いています。今回のサミットでできた友達、家で待っている家族、学校の先生など、思い思いの相手に心を込めてメッセージを書き込んでいました。



(4) 交流・表現の活動

子どもたちがお風呂から上がり、全員がそろったところで交流の時間がスタートです。まず「あいさつタッチのたび」をしました。これはグループになって自己紹介をしたあとハイタッチをするというもので、これまでに仲良くなっていた子とも、まだあまりしゃべったことのない子とも、たくさん交流ができたようです。

そのあとは、「みんなのお宝見つけ」をしました。ここでは、子どもたちがこの2日間の体験を通してできた又は発見した「お宝」を1つずつ持ち寄り、「自分の考え」「いいこと見つけ」「おたずね」「おたすけ」をキーワードにした「4

つの対話アイテム」を使ってグループの中で話し合いながら、それを大きな紙にまとめていきます。それぞれのグループから熱心に話し合う声が聞こえてきました。「まだ途中。もっと続けたい」という声もありましたが、夜遅くなる前に残念ながらこの活動は終了となりました。

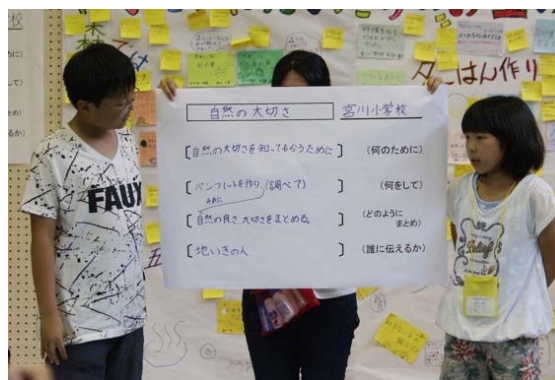


サミット3日目

(5) 交流・表現の活動

サミット3日目は、あいにくの雨。予定していた宮川での川遊びの予定を変更して、昨日の続きを行いました。

それぞれのグループが、3日間の体験を振り返って、「お宝」や心に残ったことを大きな紙にまとめました。そこには、「愛知の森と三重の森の違いを見つけたい」「森ではきれいな声が聞こえてくるよ」など、子どもたちのたくさんの学びや気づきが表現されていました。また、他の友達の感想を知ることで、「こういうこともあった」「こんな感じ方もあったんだ」と新たな発見があったようです。



そのあとは、学校ごとにわかれて、自分たちの学校に帰ってやりたいことを考えて発表しました。今回のサミットでの学んだことを、自分たちの学校の仲間にしかりと伝えてくれることと思います。

(6) 閉会式

3日間のサミットもいよいよ終わりです。閉会式では、学校の森・子どもサミット事務局長の澁澤寿一氏が閉会の挨拶をしました。帰りのバスに乗りこむときには、涙を見せる子も。地元の宮川小学校のみなさんに見送られながら、大台町を後にしました。

